

平成18年度 修士課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

作業療法士が初回評価時に着目する対象者の情報

～ 新人とベテランの比較研究 ～

学位の種類： 修士（ 作業療法 学）

保健科学研究科 作業療法学 専攻 学修番号 05855604

氏 名： 鈴木 憲雄

（指導教員名： 山田 孝 教授 ）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

【はじめに】作業療法士（以下 OTR）は対象者の効果的な治療・指導・援助計画を立案するために評価を行う。その際に情報を収集し、分類・整理する課程でクリニカルリーズニング（以下 CR）技能を用いる。CR 技能とは、作業療法（以下 OT）実施に必要な様々な情報を適切に収集する計画をたて、さらに得られた情報を基に即興的に判断する技能であるといえる。ベテラン OTR（以下 EOT）と新人 OTR（以下 IOT）では当然その技能に違いがあると考えられる。CR 過程における判断が異なれば、着目する情報も異なる可能性がある。つまり CR 技能の違いを初回評価時に着目した情報の違いで確認できると考える。

【目 的】OTR の評価中の思考過程の判断の結果、つまり評価時に着目した情報に焦点を当て、IOT と EOT が着目する情報に違いがあるかどうかを明らかにすることを目的とする。

【対 象】関東近県で脳卒中片麻痺患者（以下片麻痺）の OT を実践している OTR を口頭・文書にて募った。面接調査開始前に研究の趣旨を説明し、文書にて同意を得た OTR を面接調査対象者とし、その中から平成 18 年 3 月に養成校を卒業した IOT 7 名と経験年数 10 年以上の EOT 9 名を分析対象とした。

【方 法】本研究では、本人に撮影と使用の同意を文書で得た資料映像を使用した VTR 観察法を用いた。OT 初回評価を想定し、VTR 観察前に診断名・経過期間・年齢・性別を提示し、OT 介入を考える上で必要とする情報を面接により聴取した後、VTR 観察による評価を実施してもらい、観察後に観察評価でわかった情報と更に知りたいと判断した情報を半構成的面接にて聴取した。それを村田の分析方法を準用し、人間作業モデルの構成概念と医学的情報の 6 領域に照合分類し、カイ二乗検定にて分析した。

【結 果】IOT 群・EOT 群の VTR 観察前後と着目した情報について、その情報数を実測値とし、Yates 補正を適応したカイ二乗検定を実施した。IOT 群は $\chi^2 = 17.87 > \chi^2(5.0.01) = 15.09$ 、EOT 群は $\chi^2 = 18.40 > \chi^2(5.0.01) = 15.09$ であった。また VTR 観察前後とも、IOT 群・EOT 群という経験と着目した情報領域について同様に分析を実施したが差はみられなかった。

【考 察】初回評価において IOT 群・EOT 群ともに VTR 観察前後と着目した情報の領域は差があると判断できた。しかし、VTR 観察前後とも経験と着目した情報領域の差はないという結果を得た。このことから、IOT と EOT の CR 技能の違いを説明するものは、着目する情報ではなく、その情報をどのように解釈・判断するかという思考過程について丁寧に分析する必要があることが示唆された。